

農業者が困っている問題 ～鳥獣被害対策～



農業委員会だより

企画/宗像市農業委員会
連絡先/宗像市東郷1-1-1
TEL (36)0046

農業についての
意見を気軽にどうぞ。

市認定農業者協議会と農業委員会合同の研修会を9月22日、JAむなかたで開催しましたので、その内容を報告します。



JAむなかたでの合同研修会

【第1部】

和田三生さん(株式会社三生代表、農産物野生鳥獣被害対策アドバイザー、鳥獣保護管理捕獲コーディネーター)を講師に招き、イノシシ被害防止と駆除などの講演会を実施しました。

和田さんは「イノシシ駆除は専門駆除員をつくり、専門職として駆除しないと頭数は減らない。また、イノシシの特徴と習性を良く知ることが大事で、誰でも捕獲できるものではない」と話しました。

【第2部】

市農業振興課から、市の鳥獣被害対策の現状と対策についての話がありました。

市では、鳥獣捕獲などは猟友会に委託していて、有害鳥獣駆除部会員67人で駆除を実施しています。



【現状と対策】

- ▽被害が発生した場合、猟友会が現地調査後、必要に応じて箱わなを設置する
- ▽捕獲や防護柵などの設置に、国、県の補助金などを活用し、被害の減少に努める
- ▽地域が一体となつての

イノシシの生態と特徴を知り自己防衛を

- ▽昼夜を問わずエサを求めて活動する
- ▽味が濃厚で甘みの強い物が大好物
- ▽雑食でイモや根茎、タケノコ、昆虫の幼虫、ミミズなど、なんでも食べる
- ▽メスは子どもや姉妹と群れをつくり、オスは単独行動生活をし、交尾期にメスの群れに入る。縄張り性は低い
- ▽行動範囲は2〜3平方



捕獲されたイノシシ

- ▽取り組みが必要
- ▽有害鳥獣による農作物被害を自己防衛する人に、防除施設購入費用の一部を補助
- *詳しくは市農業振興課
☎(36)0041へ問い合わせを

- ▽警戒心が強く、臆病で注意深く、人の前に姿を見せない。その半面、いったん慣れると大胆不敵になる
- ▽鼻が敏感でにおいや感触を探る。70キロの石を動かすほど力強く、地面を掘ることができ

- ▽跳躍力に優れ、2メートルの高さを乗り越える。20センチほどの狭い隙間をくぐり抜ける柔軟さもある

自己防衛対策

- ▽飼付にならないように農作物を放置しない
- ▽田畑に近づけない。電気を通った柵、トタン、金網柵、網柵などで侵入を防ぐ

農業経営のあり方と自然環境 ～農業委員会視察研修～



視察研修の様子

農業委員会は、1年に1回、視察研修を実施しています。本年度は、8月30日〜31日にかけて

て、鹿児島県南九州市と霧島市を訪問。高齢化や農業離れが進む農業経営のあり方、自然環境について調査研究しました。自然環境では、南九州市「農業法人どんどんファーム古殿」は、非農家を含めた集落ぐるみで、自分たちの農地を守り地域農業を支えるシステムを築き実践している取り組みです。

霧島市「源麴研究所」は、生ごみ、食品残量などの食品リサイクルでの環境型農業による、新しい形の取り組みでした。農村地域は農業者だけでは守れません。南九州市の住民参加型の農業や、職業に関係なく地域を守るという取り組みは、素晴らしいと思います。また、霧島市の源麴研究所での、自然環境に配慮した農家での取り組みは最善策だと思いました。

食料貿易と地域農業の活性化を

～宗像・福津市合同農政シンポジウム～

宗像市地域農業活性化機構主催の同シンポジウムが8月2日、宗像ユリックスで開催されました。

「域農業」をテーマに、谷井博美宗像市長、小山達生福津市長をはじめ、伊規須国光JAむなかた組合長や認定農業者、女性農業者、農業委員会各代表らが、消費者代表を含めた8人のパネリストと熱心に討議しました。

基調講演では、甲斐論(さとし)さん(中村学園大学教授)が「食料貿易と地域農業の活性化」をテーマに、わが国がTPPに参加した場合の問題点を、分かりやすく説明しました。

特に、国際的な食料価格の高騰、途上国人口の膨張などによる食料調達困難の可能性、農地面積差(アメリカの100分の1、オーストラリア

の1500分の1)から生じる国際競争の格差、主要国産物平均関税率では、日本が非常に低いこと、食料自給率がカローリベースで現状の40パーセントから14パーセントに低下することが予測されることなど、映像を使った説得力のある講演で強く印象に残りました。

第2部では、「私たちは、有害鳥獣対策など



熱気にあふれたシンポジウムの会場